

事業所名 グループホーム小町

運営推進会議等開催報告書

開催日時 令和 4年 8月 26日 (金) 時 分～ 時 分		
参加者		議題
利用者	0名	1 行事報告
利用者家族	0名	2 今後の行事報告
地域住民の代表者	3名	3 利用者様状況報告
市職員	1名	4 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答
地域包括支援センター職員	1名	5 身体拘束適正化検討委員会の議題
事業所	3名	6 次回会議開催予定日
会議録		
<p>☆8/26 開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から書面開催を行います。</p> <p>☆新型コロナウイルス感染拡大防止対策について 前回同様、引き続き新規感染者数が落ち着くまでは、皆様にご不便、ご迷惑をお掛けしますがご理解の程宜しくお願い申し上げます。 感染拡大を防ぐ為に職員一人一人が人込みを避け、マスクの着用、手洗い、うがい、手指消毒を実施し、三密にならない様に危機感を持ち、自己管理を徹底していきます。まだまだ暑い陽気が続きますが、利用者様その他介護職員一同、体調を崩さない様、衣類の調節や十分な水分補給、休憩を行い、健康管理に努めつつ、安心安全な体制でグループホームでの業務に取り組んで参ります。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。</p> <p>☆中止に伴い出席予定者にレジメを文書で報告・意見照会を行いました。 意見照会(瀬戸市役所高齢者福祉課 1名 家族様 0名 民生委員 0名 地域包括支援センター1名 地域住民代表 3名)</p> <p>1. 行事報告 【7月】7日 七夕の日に笹の葉に短冊を飾りました。昼食にはそうめん・かき揚げ・七夕ゼリーを召し上がりました。 29日 他利用者様のお誕生日会を行いました。</p> <p>【8月】8日 訪問理美容を行いました。 24日 スイカ割りとヨーヨー釣りイベントを行いました。</p>		

29日 お好み焼きづくりとかき氷イベントを行う予定です。

2. 今後の行事予定

【9月】 5日 縁日イベントを行う予定です。

18日 敬老会を行う予定です。

23日 お彼岸におはぎ作りをする予定です。

3. 利用者状況報告(令和4年8月26日現在)

- ・利用者様 9名 (女性8名 男性1名)
- ・平均年齢 88
- ・平均要介護度 2.6

4. 参加者様からのご質問とグループホーム小町の返答

◇ご意見① (瀬戸市役所高齢者福祉課)

グループホーム小町ではスピーチロックを防止するための情報共有や意見交換などを行っているようですが、どのような内容や方法なのか教えていただければ幸いです。

→①のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご質問ありがとうございます。

1か月に1度、「小町会議」を行い、スピーチロックを防止する為にその都度意見交換をしています。また申し送りの際にも必要に応じてスピーチロックを防止することを話し合っています。

◇ご意見② (地域包括支援センター)

いつもお世話になります。運営推進会議・レジメ報告拝読致しました。コロナ感染が拡大する中の業務は大変だと思います。ご自愛ください。コロナ禍での研修「スピーチロック」は介護・看護の中では意識していない身体拘束で長年の課題でもあります。研修会お疲れ様でした。(地域包括支援センター)

→②のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご意見ありがとうございます。スピーチロックの危険性や防止策などを今後も話し合っていきたいと思っています。

ご意見③ (地域の保育園)

お世話になっております。特に意見はございません。今年度も宜しくお願い致します。

→③のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご意見ありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

ご意見④（地域住民）

お世話になっております。特に意見はございません。宜しくお願い致します。

→④のご意見に対するグループホーム小町の回答

ご意見ありがとうございます。今後とも宜しくお願い致します。

5. 身体拘束適正化検討委員会

議題 「スピーチロックによる身体拘束について」

◇スピーチロックとは

スピーチロックとは、言葉によって身体的・精神的に行動を抑制することを言います。「言葉の拘束」とも呼ばれています。代表的なスピーチロックの声掛けは「ちょっと待って!」「ダメでしょ!」「動かないで!」「どこいくの!」などです。言葉によって相手の行動を制限したりコントロールすることによって利用者様の言動や行動が止まってしまう事があります。話したくても話せない状態や動きたくても動けない様な状態は、身体拘束に該当します。

グループホーム小町ではスピーチロックとは何かを常に意識して、言葉の重要性を相手の立場に立って考える様に徹底しています。普段何気なく声掛けをしている言葉の中にスピーチロックにつながる事が無い様に努めています。職員間でミーティングを細目に実施し、チームで情報共有を行い、声掛けの内容を確認しながら業務に取り組んでいます。

◇介護現場では広義の身体拘束として「3つのロック」が定義されている

「3つのロック」とはフィジカルロック・ドラッグロック・スピーチロックのことです。フィジカルロックとは、物理的に利用者様の体を拘束して、動けないようにすることを言います。ドラッグロックとは薬物の過剰投与や不適切な投与を行うことによって利用者様の行動を抑制・制御することを言います。この2つのロックには、ある共通点があります。それは「道具がないと行えない」ことです。拘束する道具や薬がなければ行えませんので再発防止策を取りやすく、改善しやすいとされています。しかし、スピーチロックは違います。物理的に目に見えないロックであり、いつ誰がどこで行っているのかを明確に断定しにくい行為がスピーチロックです。スピーチロックの恐ろしい点は、

- ①スピーチロックは誰にでもできてしまう恐れがあること。
- ②スピーチロックを無意識に行っていることがあること。
- ③スピーチロックによって相手の尊厳を失わせ、意欲を低下させてしまうこと。が挙げられます。

◇スピーチロックは相手の意欲を低下させ、認知症の症状が悪化してしまう

「ちょっと待って!」「ダメでしょ!」「動かないで!」「どこいくの!」といった言葉掛けは、スピーチロックにつながる言葉掛けになります。それは何故かというと

「指示や命令をして行動を制限し、自由に動けなくしているから」です。もしこのような言葉掛けを日常茶飯事に繰り返されていると、その先に待っているのは「尊厳の失墜」や「認知症の症状の悪化」です。症状が悪化すれば、利用者様の意欲は低下し、何もしたくなくなり、何も言わなくなってしまうことにつながります。無視をする様になるかもしれませんし、拒否が多くなるようになるかもしれません。また、徘徊が始まったり、不潔行為を繰り返すようになったりすれば、利用者様のADLも低下していき、要介護度も悪化していきます。これらを防ぐためにも、スピーチロックがいかにか恐ろしい行為なのかを日々意識して、職員は行動しなくてはなりません。

◇スピーチロックの対策ポイント

スピーチロック対策で推奨されているのは、言葉の言い換えです。柔らかい言葉で丁寧に気持ちを伝えたり、説明や質問をしたりする言葉掛けになります。そうすることで利用者様の尊厳は守られますし、スピーチロックにつながらなくなります。

スピーチロックの言葉	言い換への例
待ってて!	・～していますので、あと〇分待ってもらえますか?
ダメでしょ!	・どうしましたか? ・危ないので一緒に〇〇しましょう
動かないで!	・一緒に行きましょうか? ・どうされましたか?
寝てて!	・夜になったのでお布団に入りましょうか?
座っていて!	・～すると危ないので座って頂けますか?

◇まとめ

スピーチロックは「言葉による身体拘束」です。何気ない言葉掛けでも、相手の心が傷ついていないか?相手がネガティブな捉え方をしていないか?もっと違う伝え方はなかったか?などを各個人が考えることが必要です。また、チーム間で話しあって啓蒙していくことも必要です。グループホーム小町では今後もスピーチロックを防止する為の情報共有や意見交換など、議論をしながら運営を続けていきます。

以上。

6. 次回会議開催予定日

2022年10月28日(金) 14:00 開催予定